

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 868 号 平成 27 年 1 月 23 日

日本人の国民性（2）

日本人は、バブル経済崩壊後の低迷し続ける経済環境の下で、いささか自信喪失気味だったように感じます。

それが、経済が多少上向きという事もあるのですが、「少し自信が回復しつつある」、調査結果はそんな日本人の心の揺れを示しているように感じます。

「もう一度生まれかわるとしたら日本に生まれて来たいか」どうかを聞いたところ、下表の通り

調査年	日本に生まれたい	他の国に生まれたい
2013	83%	13%
2008	77%	19%

圧倒的に多くの方が「日本に生まれて来たい」と答えています。日本の人気が高い要因としては、中東諸国での紛争状態や、欧米での犯罪の多さ等と対比する中で、改めて日本の治安の良さや日本人の価値観や行動に対する評価が高まって来ているのではないかと考えられます。

次に、日本の「生活水準」や「経済力」について聞いたところ、

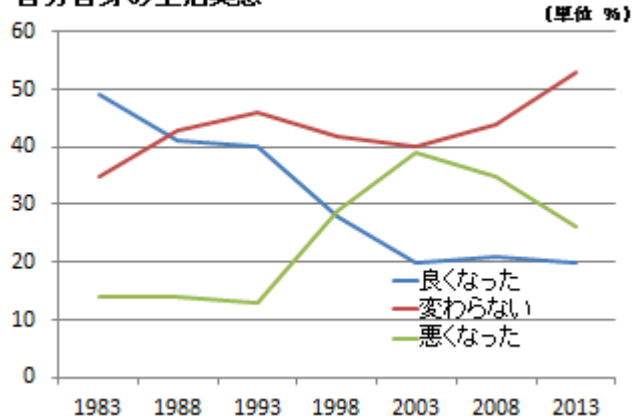
まず、「生活水準」については54%の方々が、また、「経済力」については44%の方々が、肯定的に評価しており、前回調査と比較するといずれも10ポイント程度増加しています。

一方で、自分自身の生活実感はどうか聞いたところ、「良くなった」「やや良くなった」という人は下表の通り20%程度と、依然として低迷しています。

一方、「悪くなった」と感じている人は減少傾向にありますが、変わらないという人は増えており、個人の生活実感からすれば、リーマンショック後の痛手から未だ回復していないというところだと思えます。

「自分の目標に向かって努力する」事について聞いたところ、「まじめに努力していればいつかは必ず報われる」と思っている人は72%、一方「いくら努力しても、全く報われない」と考えている人は26%となっており、前回調査と比較すると10ポイントも増加しています。特に、20代、30代の男性には「努力しても報わ

自分自身の生活実感



れない」と考えている人達が37%も存在しています。

多くの人々が「努力しても報われない」と感じていたら、将来の日本は一体どうなる事でしょうか。私には、非常に深刻な問題だと思えます。

今回の調査結果は、正規職員になりたくてもなれないとか、ブラック企業の存在、ワーキングプアといった、若者達を取り巻く環境が厳しさを増す中、若者達にとって将来に希望や目標を持ち難い社会となってしまっているのだと改めて強く感じます。

今、昨年暮れには総選挙が行われ自民党が圧勝しました。また、今年は統一地方選挙、来年は参議院選挙と政治の季節が続きますが、政治家の皆さんには、若者達が自ら明るい未来の姿を描き、そこに向かって生き活きと活躍出来る社会の実現に向けて、最善の努力を傾注して欲しいと願っています。(塾頭：吉田 洋一)